



積雲がとれなくて曇りがちの空の下を歩き始めましたが、次第に晴れ間が増えて暑さを感じるようになりました。池の東側が通行止めになっていたのので、ダムの斜面を下り、県道を通り、池の北西端から周回路に入り2つめの岬を折り返しました。池の内側の斜面は黄色や赤色など、木々が色づき始めていました。中でも愛知池沿いの民家のイチョウの黄葉が素晴らしかったです。池の北側にはクズが繁茂しているのでツチイナゴが日向ぼっこをしているかと思っていたのですが、私の目には一匹も入ってきませんでした。

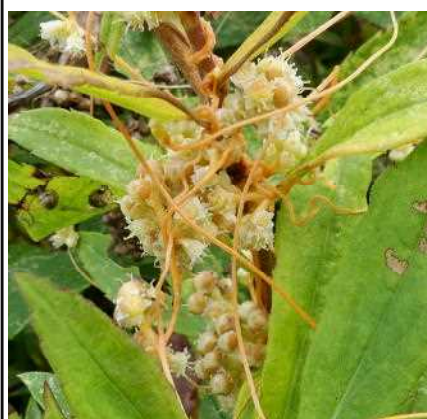


イソノキ

周回路のあちこちで見られます。全部同じ色にならずに黄色と赤色



が斑に変わっていました。夏、小さな花がたくさん咲きます。



アメリカネナシカズラ

北米原産で輸入穀物や緑化種子に混入。吸盤で草に絡みついで成長します。葉緑素を持たず宿主に吸盤から寄生根を食い込ませて養分を横取りします。



セスジユスリカ

体長 10 ミリ。吸血はしない春と秋に発生。網に入れた



ら、腹部先端に鉤状になった交尾器があるので雄でした。



エナガ

今年はよく見かけます。全長 14 ミリのうち尾は半分くらいもあります。柄が長い柄杓に例えてつけられた名です。静かにしていればすぐそこまで寄ってきます。冬はメジロなどと群を作ります。



ネコハグモの巣

葉を有効に使ってテントのような巣を作り、その下で近づく虫を待って捕まえます。体長は 5 ミリほど。あちこちの葉で見つかります。



ミナミアオカメムシ幼虫

南方系の昆虫で 1950 年代に



九州で確認され、冬季の気温上昇に伴い北上中。稲の害虫として知られています。



ナシケンモン幼虫



年に数回発生し、よく見かける幼虫。この葉はクズですが様々な葉を食べます。



ニラにホソヒラタアブ

まだニラが咲いていました。このアブは腹部の縞模様が特徴で、ホバリングしながら花から花へ飛び回ります。幼虫はアブラムシを食べます。



マガモの編隊飛行

北から 21 羽の編隊が見えたと思ったのもつかの間、林に遮られて見えなくなってしまった。画像を拡大すると黒い首に白



い環があり、羽先も黒いのでマガモでした。



カンムリカイツブリ

国内では琵琶湖などで繁殖し、愛知池に冬を過ごしに飛来します。顔に縞模様があるので今年生まれた幼鳥です。



アメリカイヌホオズキ

北米原産。他の草が枯れ始めた中で、薄紫色のナスのような花がきれいです。



アオモンツノカメムシ

体長 10 ㍉弱。肩に黒っぽい角があり、X 字状の斑紋が見られます。ツタやヤツデなどに集まり、成虫で越冬します。

植物 アレチハナガサ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ノコンギク、キダチコンギク、ブタナ、オオニシキソウ、コセンダングサ、ヒヨドリバナ、イヌタデ、ハルシャギク、ツリガネニンジン、アメリカイヌホオズキ、コマツヨイグサ、セイヨウアサガオ、ニラ、キバナコスモス、ススキ、オギ、ヨシ、タチスズメノヒエ実粘る(目立つ)、セイバンモロコシ、トダシバ、ヌカキビ、スイフヨウ、ブツレア(フサフジウツギ)、シキザクラ、アレチヌスビトハギ実、アメリカネナシカズラ実、イノコズチ実、マメアサガオ実、マルバアメリカアサガオ実、カナムグラ実、タンキリマメ実、クズ実、メリケンカルカヤ実、メガルカヤ実、ヤマノイモむかご、サザンカ花蕾、コナラ実、ミツバアケビ実、ノイバラ実、イヌザンショウ実、マメナシ実、アオツズラフジ実、カクレミノ実、ヌルデ実、イタドリ実、リョウブ実、ミヤマガマズミ実、ムラサキシキブ実、ゴンズイ実、(紅・黄葉始まり)イソノキ、イタドリ、サクラ類、ミヤマガマズミほぼ落葉、ヌルデ、ヤマウルシ、ヤマハゼ、ツタ、イチョウ、**昆虫** キタキチョウ、チャバネセセリ、ウラナミシジミ、ツマグロヒョウモン、ナシケンモン幼虫、ホソヒラタアブ、オオハナアブ、キゴシハナアブ、オオクロバエ、セスジユスリカ、ホシササキリ、オオカマキリ、クサヒバリ声、ミナミアオカメムシ幼虫、アオモンツノカメムシ、キョウチクトウアブラムシ(ガガイモ)、アブラムシ(緑色・セイタカアワダチソウ)、ナナホシテントウ幼虫、オオスズメバチ、クロヤマアリ、**クモ** ジョロウグモ雌雄、コクサグモ、ネコハグモ、ネコハエトリ、**鳥** ノスリ、ツグミ声、スズメ、ヒヨドリ、ウグイス地鳴き、メジロ、モズ、エナガ、ジョウビタキ、カワウ営巣、カルガモ、オオバン、マガモ編隊飛行、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、**その他** ニゴイ?、モウソウチクのとんぐ巣病、ヌルデハイボケフシ(フシダニの一種)

次回は、12月10日(木) 午前9時30分、水資源機構P前集合、参加費100円